

# 農業の新しい技術

No. 649(平成24年5月)  
分類コード 02-04  
熊本県農林水産部

## ニガウリの無加温半促成、抑制作型での 接ぎ木栽培

農業研究センター 農産園芸研究所野菜研究室  
担当者：山並篤史

### 研究のねらい

本県において、近年、ニガウリつる割病の被害が急速に拡大しているが、主要産地の沖繩、鹿児島、宮崎県では当病害対策として、接ぎ木栽培により被害を回避している。

しかし、本県の主要作型である無加温半促成、抑制作型においては、接ぎ木栽培に関する知見がない。

そこで、半促成、抑制作型における安定生産のためのニガウリの接ぎ木栽培を確立する。

### 研究の成果

1. 半促成作型—カボチャ台「新土佐1号」は、自根と比べ初期生育は優れるが後期は同等である。へちま台「ともだち」は初期生育から劣る（表1）。

カボチャ台「新土佐1号」は、自根と比べ同等の収量を確保出来るが、へちま台「ともだち」は減収する（図1）。

また、カボチャ台、へちま台とも雌花節率、果実外観に差はない（表1、表2）。

2. 抑制作型—カボチャ台「新土佐1号」は、自根と比べ生育が優れた。へちま台「ともだち」は自根と生育の差はない（表1）。

カボチャ台「新土佐1号」は、自根と比べ増収する（図2）。

また、カボチャ台、へちま台とも雌花節率、果実外観に差はない（表1、表2）。

3. 穂木品種に関わらず収量は、同様の傾向を示す（図3）。

以上のことから、ニガウリつる割病を回避し安定生産するため、カボチャ台「新土佐1号」に接ぎ木すると、半促成、抑制作型とも自根と同様の品質、同等以上の収量を確保できる。

### 普及上の留意点

1. 草勢維持のため、着果開始節を20節以上とし、4節に1果の適正着果を徹底する。

（農業の新しい技術No. 587「県育成ニガウリF<sub>1</sub>品種「熊研BP1号」の半促成作型における安定多収のための着果技術」を参照）

また、交配開始時期からの追肥を遵守する。

表1 半促成、抑制作型の生育および雌花節率 (2010年抑制、2011年半促成)

	半促成		抑制	
	生育 総合評価	雌花節率 (%)	生育 総合評価	雌花節率 (%)
自根	○	50	○	63
カボチャ台「新土佐1号」	◎	53	◎	58
へちま台「ともだち」	△	49	○	63

※ 畝幅 2.5m、株間 100cm、1条植 (40株/a)、子づる3本をアーチパイプに誘引する仕立て法にて実施

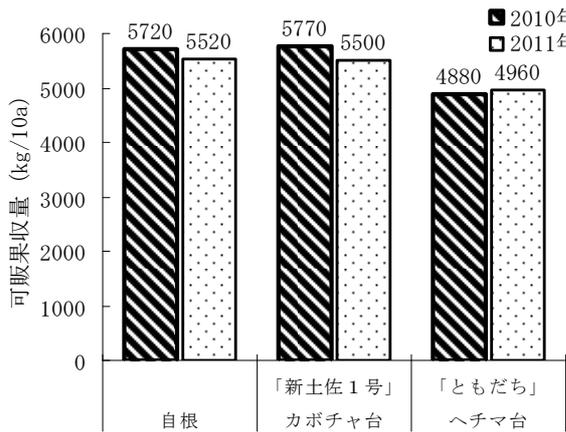


図1 半促成作型の可販果収量

※2010年：2月19日定植 4月21日～7月31日収穫  
2011年：2月21日定植 4月25日～7月31日収穫

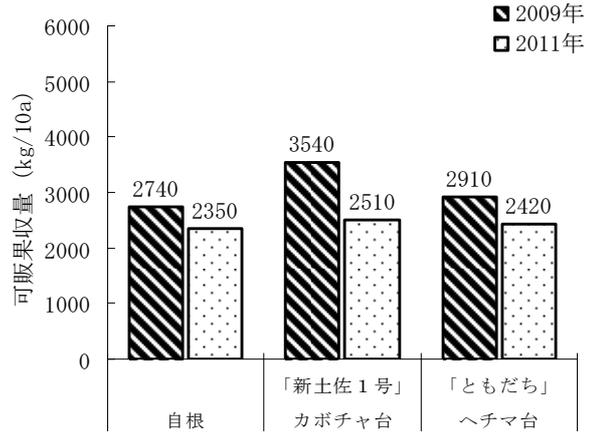


図2 抑制作型の可販果収量

※2009年：7月30日定植 9月5日～11月30日収穫  
2010年：8月6日定植 9月12日～11月30日収穫

表2 半促成、抑制作型の果実品質 (2010年抑制、2011年半促成)

	半促成		抑制	
	果径 (mm)	果長 (cm)	果径 (mm)	果長 (cm)
自根	55	25.7	55	25.0
カボチャ台「新土佐1号」	56	25.0	54	25.0
へちま台「ともだち」	55	24.0	52	26.0

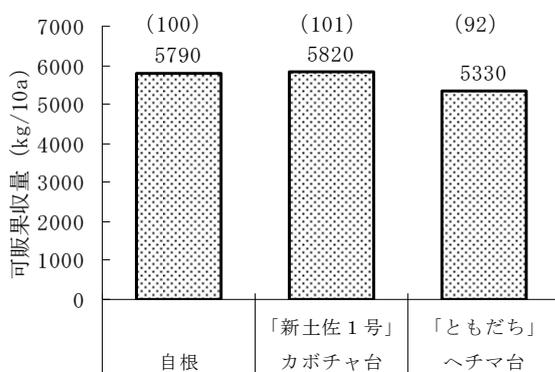


図3 「えらぶ」の可販果収量 (2011年半促成)

※2011年：2月21日定植 4月25日～7月31日収穫  
※ ( ) は自根を100とした時の重量比

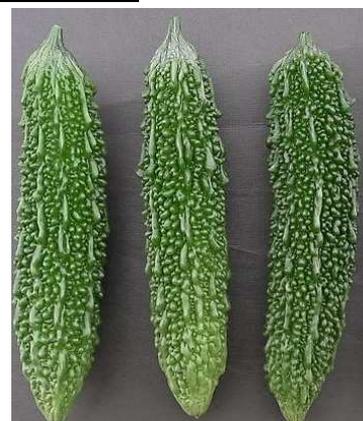


写真1 果実外観 (穂木：熊研BP1号)

写真1 果実外観 (穂木：熊研BP1号)